

くいしんぼのハチ



絵・文 本多豊國



くいしんぼのハチ



絵・文 本多豊國



むかし、むかしのおおむかし。
ハチは、海のもごうのブンブン島だけに
すんでいた。
花がいっぱい咲いていて
ハチたちは、のんきに楽しく、くらしてた。
ハチのてんごくブンブン島。

なかまのハチの10ばいも100ばいも
たべてたべてたべまくる くいしんぼのハチがいた。
まんまるでっかい クマンバチも
びっくりしたり、おどろいたり……。
たべてたべて でっかくなった。



くいしんぼのハチは、むしゃむしゃ、むしゃむしゃ
たべつけ、もっともっと 大きくなった。

「ほんとにきみはハチさんかい」
「ほくたちと おなじくらいにでっかいな」
おおぜいすずめがあつまってきて
おしゃべりにぎやか、おおわらい。





それでも、どんだんたべつづけ、
どんだん、どんだん 大きくなった。

「ずいぶん でっかい ハチさんだね」
「ハトのなかまになっちゃえば……」
ハトといっしょに、木の枝で
げんきにおしゃべり、くいしんぼのハチ。





それでも、もりもりたべつけ
もりもり、もりもり 大きくなった。

「ほくたちよりも、てっかいぜ」
「世界で一番大きいハチさんだね」
森にすんでるとどうぶつたちが
くいしんぼのハチを見にやってきた。



それでも、くんくんたべつづけ
くんくん、くんくん大きくなった。

「なんて……まあ……」
「でっかいハチなんだろう」
水をのみにとんできたくいしんぼのハチを
みて、かはあきれて、空をみた。

それでも、まだまだたべつづけ
まだまだ、まだまだ 大きくなった。

「あんまり 大きくなりすぎて」
「とうとう、とべなくなっちゃったね」
ゾウよりでっかい くいしんぼのハチ。
ゾウは、ちょっぴり しんばいしてた。



それでも、ばりばり たべつづけ
ばりばり、ばりばり 大きくなった。

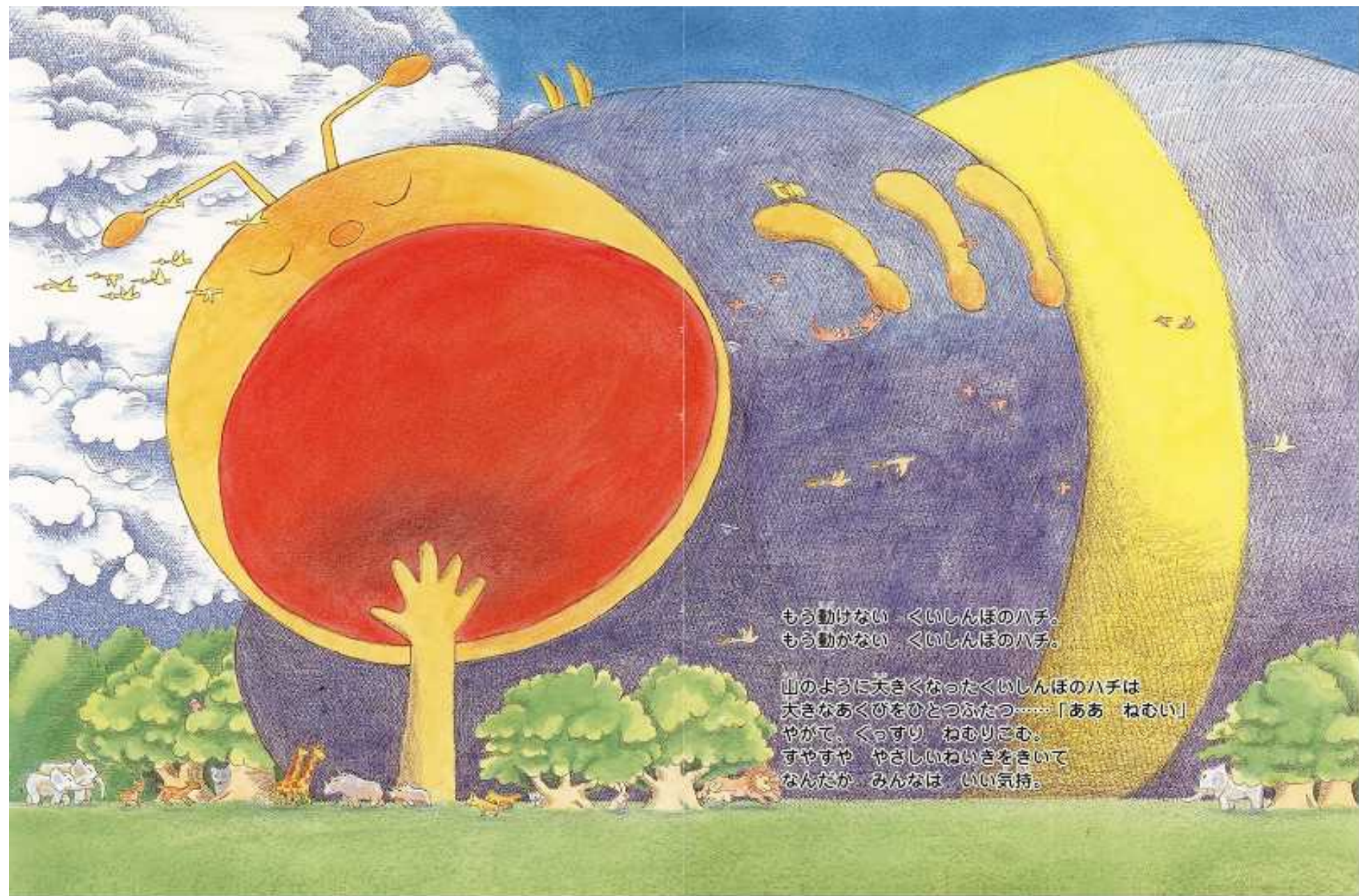
「ずいぶん、でっかくなっちゃったなあ」
「そんなに、たべて だいじょうぶなの」
ついに、うごけなくなったくいしんぼのハチを
みんなあつまり、しんばいしてた。



それでも、いっぱい いっぱい たべつづけ
ものすごく 大きくなった。

くいしんぼのハチをひとまわりするには
べんとうもって いちにちがかり。
きもちのよい風、あかるいひかり。
のんびり 島中ながめて にこにこ 笑う。





もう動けない くいしんぼのハチ。
もう動かない くいしんぼのハチ。

山のように大きくなったくいしんぼのハチは
大きなあくびをひとつふたつ……「ああ ねむい」
やがて、くっすり ねむりこむ。
すやすや やさしいねいきをきいて
なんとか みんなは いい気持。



ねむってしまったくいしんぼのハチは
フンファン島のくいしんぼ山とみんなに呼ばれて
何十年もたっていた。
花はさき、木もたくさんしげって……。
虫や鳥や 動物たちがたくさんたくさんすんでいる。



ある晴れた日の朝のこと。
くいしんぼ山が、
太はくはつみたいなでっかいくしゃみ。
いろんなハチが元気いっぱいとびだした。
つきからつきへととびだした。
どんとん、どんとんとびだした。
いきおいよく とびだした。

くいしんぼ山から とびだした
かぞえきれないハチたちは
世界中のすみずみにブンブンブンとんでった。

いまでは ハチは
山でも森でも林でも、畑でも野原でも
庭でもどこでも げんきよく 楽しくゆかいに
くらしてる。





海のもこうのブンブン島。
くいしんぼのハチは、くいしんぼ山になったまま
いまでも グウグウねむってる。

あとがき

人と違うこと

いくらくいしんぼでもこんなに大きくなったハチなんて見たこと
ないよ、ハチが山になんてなるわけがないよだって？
ふうん。ボクは見たんだ!! はじめ、ボクんちの玄関の上に巣をつく
っていたんだ。それが、だんだん大きくなってね、うそじゃないよ。
いまでは多摩川のそばで山になってるよ。ほんとだよ。ボクだって、
こんなに大きくなったのはこのハチしか知らないけどさ。多摩川の
そばの山は爆発しなかったけれども、ハチはいっぱいいるよ。

世界にはいろいろなハチがいて、そのいろいろってことがすばら
しいんだ。そして、みんな違うんだってことを認めることが、もっ
とすばらしいことだって思う。たった一匹のこの大きくなったハチ
はついに爆発してたくさんいろいろなハチを生みだした。いろい
ろなものを見たり、聞いたり、やってみたりして自分自身になろう
とすると、このハチみたいに自分の中でなにかが大きくなってく
るんだ。そして〈なにか〉を生み出すんだ。これが創造だ。そうす
ると、人と違ってくることになる。人と違うこと、みんなと同じじゃ
なくていいということが大切で、人と違うことをこわがっちゃいけ
ないんだ。キミの中にとっても大きな宝物があるんだってぼくは思
いたいんだ。

カラーインクで線を描いて柔しい感じを出したくて、色は水彩絵
具や色鉛筆や、パステルやいろいろなものを使いました。



本多豊國・略歴

1945年(昭和20年)東京に生まれる。

1971年(昭和46年)モンゴル・ゴビ砂漠の寺院で彫刻らしい仏画を見てそれまでの油彩による制作を放棄。以来、墨と彩とによって「アジア的」を主題に制作・発表を続けている。他に墨絵による「ふすま」「屏風」「掛軸」や、京都禅定寺壁画「大涅槃」などの制作。日洋展など入選、個展多数。

2000年(平成11年)中国・青島国際版画ビエンナーレ 優秀賞

1990年(平成2年)から絵本を制作。

「き」「かさじぞう」(フレール館)「なよたけのかくや姫」(ラボ教育センター)

「きいろいセーター」(清流出版)など多数。

・「こぶとり」ポーランド国際絵本原画ビエンナーレ 入選(イタリア)

・「ももたろう」ラニオン国際絵本原画ビエンナーレ グランプリ「イカロス賞」(フランス)

・「本多豊國特別招待展」プラチスラバ国際絵本ビエンナーレ (スロバキア)

・「きいろいセーター」ゴールデンペン・ビエンナーレ 入選(ユーゴスラビア)

他に雑誌・TV・広告などのイラストレーション。

くいしんぼのハチ

2001年7月20日 初版発行

著者 本多豊國

©Toyokuni Honda, printed in Japan, 2001

発行者 加登屋陽一

発行所 清流出版株式会社

東京都千代田区九段北1-3-5 (〒102-0073)

電話 (03) 3288-5405

振替 00130-0-770500

印刷・製本所 内外印刷株式会社

編集担当=金井雅行

デザイン=本多豊國

乱丁・落丁本はおとりかえいたします

ISBN4-916028-93-7 C8793

<http://www.seiryupub.co.jp/>



豊國

Toyokuni Honda

1945年東京生まれ。アーティスト。

主に墨絵で絵を描く。独特の墨の線と彩(いろ)で見る者を魅了している。

その絵からは安心感や勇気、元気などが伝わってくる。

現在を生きる墨絵として評価が高く日本のみならずアメリカでの評価も急上昇してきている。

絵本は欧州で評価が高く様々な賞を受賞している。

また墨絵を観客の目の前で描く墨絵ライブのパフォーマンスは日本やアメリカで高い評価を得ている。

本多豊國のより詳細については下記アドレスから。

<http://www.nekomachi.com>